

「空から山へ、そして海へ」：タイの農業用水管理は世界目標をどう支えるか

サラン・チャルーンスワン

タイ外務省副次官

2015年9月、国連加盟国全193カ国は、極度の貧困を終わらせ、不平等と戦い、誰一人取り残さないことを約束した「17の持続可能な開発目標（SDGs）」を通じて、地球を守る道筋を示し全ての人にとってより良い未来を実現するための計画を採択しました。

しかし、世界がこれらの目標を達成する前に複数の課題が残されています。国連食糧農業機関（FAO）によると、93億人の人口を養うためには、あと60%多くの食料を2025年までに生産する必要があります。もし気候変動が天然資源の質と利用可能性に圧力をかけ続けるのであれば、これは簡単なことではありません。この理由から、特に農業における効果的な水管理は重要な鍵を握っています。

タイでは、人口の3分の1が農業に従事し、その多くは年間降雨量に依存しています。タイの農民が季節ごとの降水量に依存していることは、水を使ういくつかのタイの儀式に反映されています。例えば、東北部の村人たちが手製のロケットを空に飛ばして雨乞いをする「ブン・バンファイ」というお祭りがあります。



Traditional Boon Bung Fai (Rocket Festival)

Credit: <http://www.watpamahachai.net/>

1946年に即位されてすぐプミポン前国王が注目したのは、まさにこの問題でした。この問題に取り組む陛下の決意は、SDGsが採択されるずっと以前から、農業用水管理をタイの開発政策に不可欠なものとし、そのことは、1986年3月17日のチットラダー宮殿での演説に表れています。

「生命が存在する以上、消費に必要な水と農業に必要な水がなければならないのです。水があれば、人間は生きていけます。水がなければ、人間は生きていけません。電気があれば、人間は生きていけます。電気があっても、水がなければ、人間は生きていけません。」

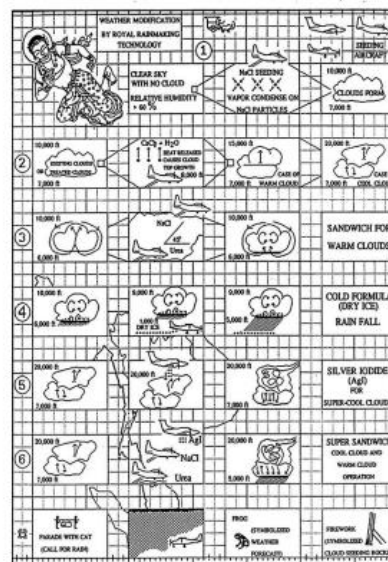
適切な解決策を見つけるために、前国王自らが干ばつや洪水の影響を受けたタイの遠隔地へ足を運んでいたニュースがほぼ毎日報道されていたことは、多くのタイ人の記憶に残っています。チャイパッターナ財団事務局長のスメート・タンティウエーチャクン博士は、プミポン前国王の水管理原則の枠組みを「空から山へ、そして海へ」と要約しました。

空から：プミポン前国王は、農業と発電の両方のための水供給を増やすために「王立人工降雨プロジェクト」を設立しました。

このプロジェクトは、1955年に陛下が東北部の州の干上がった地域を訪れ、降水量はないものの気象条件が曇っていることに気づいたときに始まりました。

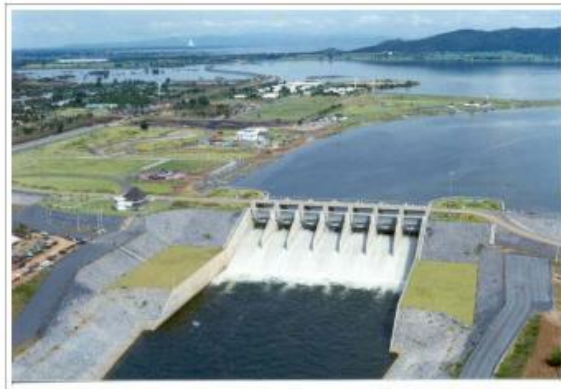
この見解は、人工降雨技術を発展させ、完全なものにすることを国王に動機づける機会となりました。

50年以上にわたる全国の「王立人工降雨プロジェクト」は、農民が支障なく収穫でき、水力発電用ダムが適切に機能できるほど十分な量の水を供給してきました。



Weather Modification by Royal Rainmaking Technology
Credit: Google Patents

プミポン前国王が発案した山上の貯水池と灌漑システムは、農業と日常の使用のために一年中水を利用できることを保証しました。それらはまた、適切なタイミングで余剰水を海へ放出することによって洪水の深刻さを緩和するために採用されました。タイ最大の「アースフィルダム」であるパーサク・チョンラシット・ダムは、バンコク大都市圏とその隣接地域を含む352,000ヘクタールの農地があるチャオプラヤー川の主要支流の1つであり、パサク川の洪水や渇水対策として最も広く知られている国王の取り組みの1つです。このダムは、雨季に上流の余剰水を集めて貯水し、下流の洪水を軽減するために設計されました。



Pasak Jolasid Dam

Credit: Office of the Royal Development Projects Board website



Pasak Jolasid Dam

Credit: Public Relations Department website

水の流れを調整するだけでなく、複数の王室プロジェクトでは、土壌や森林の再生と組み合わせた近代的な灌漑技術を採用し成功を収めています。その代表的な例が、ペッチャブリー県チャムにあるフブカポン・ロイヤル・プロジェクト・ラーニングセンターです。このプロジェクトは1964年、プミポン前国王が資本も土地もない地元の村人や農民の苦境を目の当たりにしたことがきっかけで始まりました。その後、陛下は、再生を目的として、この地域に1,932ヘクタールの荒廃した森林を確保することを決定しました。



*Hub Kapong Royal Project Learning Centre
Credit: Thailand Sustainable Development Foundation website*

イスラエル政府は、自国の砂の多くの部分の耕作に成功した点滴灌漑や温室システムの農業技術の世界的権威です。このプロジェクトは、イスラエル政府とのユニークな国際協力が誇りです。時間の経過とともに、フブカポンの荒廃した土壌は徐々に修復されてきました。今日、地元の農家は、アスパラガス、トマト、マスクメロンなど、50年前には絶対に不可能だった様々な果物や野菜を栽培することができます。このプロジェクトはまた、生活の質を包括的に改善するためのインフラ、コミュニティ管理の知識、そして協同組合の運営に関するトレーニングを住民に提供しました。

大きな進歩の後、フブカポンは新しい持続可能な農業慣行を開発し続けています。採用されたプミポン前国王の「新理論」モデルは、土地を4分割して、30%を灌漑用水貯留用、30%を稲作用、30%を混植用、残り10%を住宅・家畜用地としています。この概念により、世帯は自立することができ、単一の換金作物を栽培することによるリスクを軽減できます。現在、「新理論」モデルは、マハー・ワチラロンコン国王が提唱する「コーク ノーン ナー」モデルへと発展し、「新理論」モデルに土着の農業の知恵を取り入れ、それぞれの地域のニーズや状況に合わせた解決策を提供するようになっています。



The key principle of the Khok Nong Na Model is to store sufficient water by focusing on storage of water in three main areas: mound, marsh, and rice field.

Credit: Surin Provincial Agriculture and Cooperatives Office website

フブカボンと同じように、プミポン前国王の水管理に関する王室のイニシアチブのいくつかの構想は、他の地域に広げてさまざまな環境下での有効性を検証する前に、まずは狭い地域で試験的に実施されました。今日まで、これらのプロジェクトから得られた知識は、タイ全土の農民によって実施され、印象的な結果をもたらしました。これは、プミポン前国王の遺産がマハー・ワチラロンコン国王によってさらに積み上げられていることを証明しています。これらの取り組みやプロジェクトの成果は、降雨を望む人々への回答であると同時に、SDGs 達成に向けた道しるべとなる可能性が大いにあります。

* * * * *



サラン・チャルーンズワンは、二国間および多国間関係において豊富な経験を持つ著名な外交官です。彼は、外務省の欧州局、東アジア局、米州・南太平洋局など3つの地域局の局長を歴任しています。2018年から2022年初めまで駐仏タイ王国大使を務めた後、タイの二国間関係を担当する外務次官として本国に戻りました。